平成 25 年度実施 大網白里市住民協働事業 報告書

事	業名	エコキャップ活動を通した社会参加事業				
事業主体		実施団体	市(関係課)			
学 来	き土 14	シェイクハンズ	社会福祉課			

事業	来	弗	予算額	決算額	市補助金額(交付確定額)
	業	冥	358,900円	417,640円	300,000円

【 ①課題 ②目的・効果について 】

次の事項がわかるように、事業概要と成果を記入してください。

○どのような地域課題(行政課題)、住民ニーズに対して、

Oいつ Oどこで O誰を対象に Oどんなことを Oどのような方法で実施し、

○どのような効果が得られたか。 ○住民の満足度は得られたか。

団 体

【課題】

障がいを持つ子(人)は、社会との関わりを持つ機会が少なく、生活圏の地域においても孤立してしまう傾向にあります。また、社会とのつながりが希薄になるほど、障害を持つ子(人)に対する理解が不十分となり、誤解や偏見など差別の拡大につながることが危惧されます。

障がいを持つ子(人)も地域社会の一員として「共に生きる」ことを目指すため、社会に参加できる場の創出が必要となります。

【目的】

障がいを持つ子(人)や支援者たちが、地域の方と共にエコキャップ活動を行うことで、 障がいを持つ子(人)の社会参加への支援や障がいに対する理解の促進を図ると共に、地 域コミュニティの形成にも役立つことを目的としています。

【事業概要】

- ①障がいを持つ子(人)の社会参加を促進すると共に、障がいを持たない子や地域の方との交流を深めるため、キャップの回収や分別作業を、地域の方や小学校・中学校・高等学校・大学の児童・生徒・学生と共に行いました。
- ②団体活動の活性化を図るため、障がい者支援施設などの視察を実施し、調査研究を行いました。
- ③社会への貢献として、キャップのリサイクル対価をポリオワクチンの購入費用として寄 付を行いました。

【事業概要の成果】

①について

地域の方や各学校の児童・生徒たちと、定期的にエコキャップ活動(回収や分別)を行ったことで、交流が深まり、お互いに理解を深めることもできました。また、障がい者支援施設 山武青い鳥工房から、市役所・福祉会館・中央公民館・中部コミュニティセンター・白里公民館・大網病院で集まったキャップの回収と分別作業の協力をいただけました。障がいを持つ子(人)の社会参加支援にもなったと思います。

②について

団体会員や活動に協力してくれているボランティアの方々、学校・施設などの職員の方と一緒に、キャップ出荷先の業者と障がい者支援施設の視察を行いました。キャップのリサイクルの工程や、キャップ分別の作業を見学し、エコキャップ活動や障がいに対する理解がより深まったと思います。

③について

2014年1月に、ポリオワクチン2800人分相当のキャップリサイクル対価を寄付しました。

今までの寄付の合計は、13240人分相当となりました。また、今年度、初めて、寄付先のJCVから感謝状もいただきました。

【 ③企画力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割

- ・キャップの回収、分別及び保管・管理
- ・リサイクル業者へのキャップの出荷
- ・ボランティア募集及び協力参加の体制づくり
- ・回収場所への活動報告書の提出
- ・NPO 法人 世界の子どもにワクチンを日本 委員会に対する寄付活動
- 各学校との交流活動の企画・実施
- ・障がい者支援施設 山武青い鳥工房との 連携
- ・エコキャップ活動の展示
- ・夏休みの研修の実施
- 協働事業定例会等の出席

市(関係課)の役割

- ・キャップの保管場所として、一時的に利 用可能な場所を提供した。
- ・新たなキャップ回収場所を設けるため、 白里出張所及び中部コミュニティセンタ 一の施設担当と協議を行い、回収箱を設 置することができた。
- ・本活動の趣旨が、市民に広く理解される よう、広報紙を活用し活動内容の周知を 行った。
- ・様々な活動が円滑に実施されるよう支援 を行った。
- ・キャップの分別作業等に立会い、団体の 抱えている問題点を共有し、問題の解決 策を共に考えた。

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価(☑)をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市(関係課)
□ 適正であった	□ 適正であった
☑ 概ね適正であった	☑ 概ね適正であった
□ あまり適正でなかった	□ あまり適正でなかった
(理由)	(理由)
キャップの回収、分別、出荷、寄付や活動	
報告書の提出など、役割は概ね適正であっ	
たと思いますが、会員の力以上の努力を必	
要とした所もありました。	

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容(実績)を詳細に記入してください。

当初の計画 ①障がいを持つ子(人)の社会参加を促進すると共に、障がいを持たない子や地域の方との交流を深めるため、キャップの回収や分別作業を地域の方や小学校・中学校・高等学校の児童・生徒と共に行う。・キャップの回収を実施

- H25.4~H26.2まで毎月実施
- ・キャップの分別を実施 H25.4~H26.2まで 大網白里まちづくりサポートセンター (毎月第4月曜日実施)

清和の里 [茂原市] (毎週水曜日実施)

- ・小学校・中学校・高等学校におけるエコ キャップ活動を実施
- ・城西国際大学におけるエコキャップ活動 を実施

①について

・キャップの回収を実施 協力団体と連絡を取り合い、毎月随時 実施

績

実

- 6月~ 山武青い鳥工房が回収協力
- キャップの分別を実施 大網白里まちづくりサポートセンター (毎月第4月曜日実施) 他にも都合のつく日に実施

清和の里「茂原市」

(毎週水曜日実施)

他にも都合のつく日に実施

山武青い鳥工房

毎週

・小学校・中学校・高等学校におけるエコ キャップ活動を実施

各学校と連絡を取り合い、随時回収実

H25.4~H26.2まで、8月を除き毎月実施 | 施

- ②団体活動の活性化を図るため、障がい者 支援施設などの視察を実施し、調査研 究を行っていく。
 - ・障がい者支援施設の研修を実施
- ③社会への貢献として、キャップのリサイ クル対価をポリオワクチンの購入費用と して寄付を行う。
 - ・NPO 法人 世界の子どもにワクチンを日 本委員会に寄付
- ④障がいを持つ子(人)の社会参加の機会 を拡充すると共に、障がいに対する理解 を深めるため、地域イベントへの参加を 促進し、参加者同士の交流の輪を広げる。
 - ・子ども平和コンサートへの参加
 - ・城西国際大学学園祭への参加
 - ・子どもフェスタへの参加

各学校との交流活動

6月 大網中学校とのエコキャップ 交流会

大網中学校福祉委員会の生徒や先 生とメンバー15名で、キャップ 計量と分別でのエコキャップ交流 会を実施

12月 大網高校との交流会

大網高校JRC部員と有志の生徒 や先生とメンバー14名で、大網高 校の生徒が企画したレクリエーシ ョンを実施

他にも、大網小学校(7月)、季美の 森小学校(12月)などともエコキャ ップ交流活動を実施

・城西国際大学におけるエコキャップ活動 を実施

8月、1月を除き毎月実施 エコキャップ活動から広がった交流会 を実施(11月)

東金特別支援学校との交流 7月と2月に、中学部の生徒とエコキ ャップ交流活動を実施

②
 について

・障がい者支援施設の研修を実施 7月 NPO法人 あゆみ会(障がい者 支援施設)を視察

キャップの出荷先の㈱東京木工所も視 察、キャップのリサイクル工程の説明 を受けた。

(参加者32名)

③について

・NPO 法人 世界の子どもにワクチンを日 本委員会に寄付

2014年1月に、キャップリサイクル

対価5万6000円(ポリオワクチン2800人相当)を寄付

④について
・子ども平和コンサートへの参加
・城西国際大学学園祭への参加
・子どもフェスタへの参加
・ゆめの木「木のおもちゃで遊ぼう」への参加
各イベントに、都合のつく会員が参加する形とした。

⑤その他
4月 キックオフイベントの参加
11月 パネル展の参加
2月 パネル展の参加
協働事業定例会の出席

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価(☑)をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

	団体		
	適正であった		
\checkmark	概ね適正であった		
	あまり適正でなかった		
(理由			
エコキャップ活動は2008年から行っていましたので、見通しを立ててスケジュールを			
組んだつもりでしたが、新たに活動を増やしたことで、会員の力以上に努力しなければな			
らない	い場面もありました。		

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活 性化した点について記入してください。

(例:○○を購入したことにより○○のスキルが上がり、効率的に活動できた。○○活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。)

団 体

- ・キャップ一時保管場所を貸していただけたので、回収や保管の負担が大幅に軽減されま した。
- ・パソコン・カメラなどを購入することができたので、私物の転用が少なくなり、会員の 個人負担が軽減されました。
- ・回収袋や分別袋、ばねばかりなど多数購入できましたので、活動準備もスムーズになりました。
- ・協働事業により、団体の認知度が高まり、学校や地域との交流活動が取り組みやすくなりました。
- ・障がい者支援施設 山武青い鳥工房に、回収や分別の協力をしていただけるようになりました。

また、その結果について、自己評価(☑)をしてください。自己評価の理由もあれば記入 してください。

	• • • •					
				寸	体	
\square	強化、	活性化した				
	概ね強	1化、活性化	した			
	あまり	強化、活性	化しなかった			
(理由	∃)					
協働事業により、活動基盤が強化されました。また、会員力量に応じた適正な活動を見直					見直	
す機会	会にもな	けました。				

【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

団 体

「障がいを持つ子(人)は社会との関わりを持つ機会が少ないので、社会に参加できる場の創出が必要である」という地域課題について、社会福祉課と協働で事業に取組みました。協働事業として活動を行えたことで、エコキャップ活動を通して、障がいを持つ子(人)の社会参加への支援や障がいに対する理解の促進が広くできたと思います。研修会の企画、各学校との連絡や企画・準備・実施等も、社会福祉課と協力して行い、とてもスムーズに進めることができました。協働事業ということで、キャップ一時保管場所も貸していただけたので、回収や保管の負担が大幅に軽減されました。

地域の方たちと一緒に行った研修会や各学校とのエコキャップ活動は、障がい児を含む 児童生徒と地域社会との交流の推進にもつながったと思います。また、障がい者支援施設 からの協力もいただくことができ、障がいを持つ子(人)がボランティア活動として行い、 社会の一員として地域で役割を持つこともできたと思います。

市 (関係課)

エコキャップ活動を通じ、障害のある方が地域社会との関わりを持つ機会を創出し、地域での孤立を防ぐ一助となった。また、障害のある方が地域の方とふれあう機会が増え、障害に対する理解の促進が図れた。

また、団体との協働事業を通し、障害のある方又はその支援者が抱えている問題などを 得ることができ、今後の障害福祉に関する施策に活かしていきたい。

また、その協働による効果について、自己評価(☑)をしてください。自己評価の理由も あれば記入してください。

団 体	市(関係課)	
□ 効果があった	□ 効果があった	
☑ 概ね効果があった	☑ 概ね効果があった	
□ あまり効果はなかった。	□ あまり効果はなかった。	
(理由)	(理由)	
活動に協力してくれている地域住民のボラ		
ンティアさんや子どもたちと理解を深める		
こともできました。		